

「…何やってるんだ、お前は」

「何って、ハロウィンだから」

トリックオアトリートしに来たんですよ

…で、返事が無かったのでイタズラしてます♪」

「そりや寝てたんだから返事できないわな…」

「ほんととはクレアちゃんに

トリックしたかったけど、

あの子、私を置いて男の子と

デートに行っただんですよ！

私を置いて!!男の子と!!デートを!!」

「つまり八つ当たりしに来たのか…」



「まあまあ、こうしてコスプレ美少女と
良い思い出来てるんだから、
そう睨まないでくださいよ」

「自分で言うな…っ…おい、
生でやってるじゃないか
射精る前に早く抜け！」

「大丈夫ですよー安全日
（じゃないけど、精気に変換して
孕む前に消化するから平気）ですし♪」

「そうやって過信するのが…っぐ、
おい、もう射精るからいい加減…」



「…えい♪」
「ぐっ、ーッ」

「…あーあ、避妊がーとか
言っておきながら、こっちが
抜く前にいきなり射精しちゃってーw」
（…抜く素振りかどころか、むしろ
膣内締めて射精を促しといて、こいつ…）



「うわー、何だかんだ言って、
気持ち良さそうな顔で中出し
やりきってるじゃないですかーw」

「……」

「はいはい、この状況で
睨んでも可愛いだけですよー
さて、まだまだコレも元気そうだし、
このまま最後までトリックしてあげますね♪」

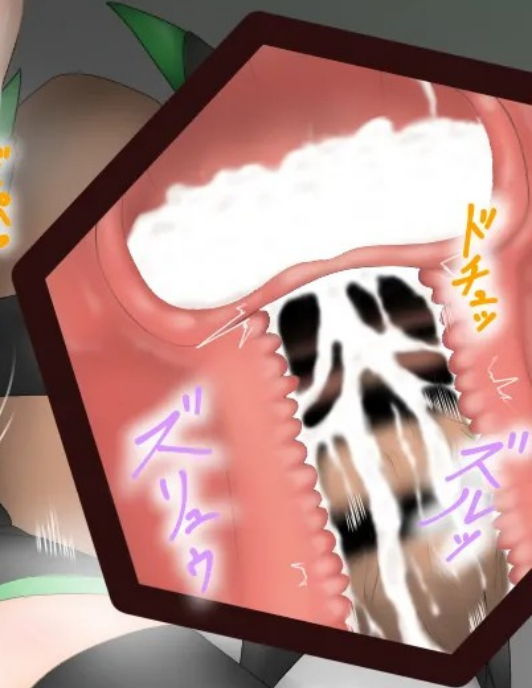
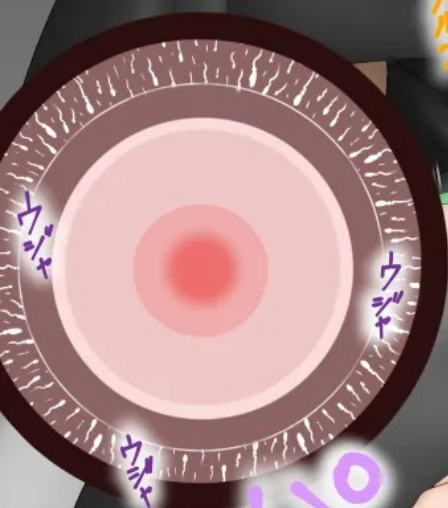


数時間後…

「…ちよ、ちよっと…
いつになったら
弾が尽きるんですか…?」

「ぐっ…そっちこそ、
まだやる…つもり、か…?」

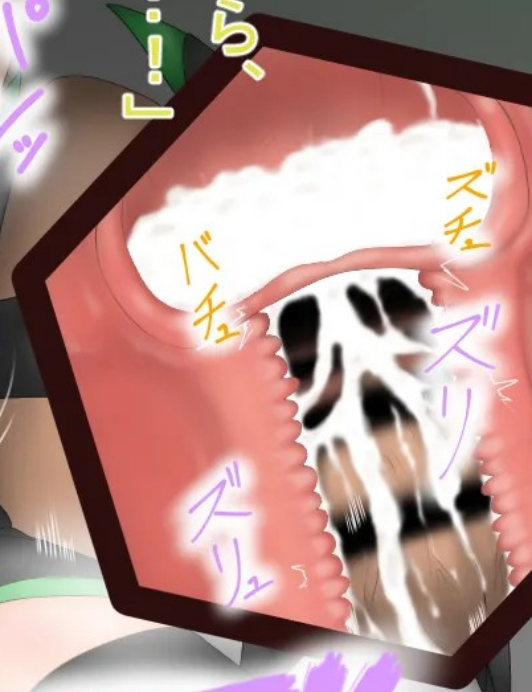
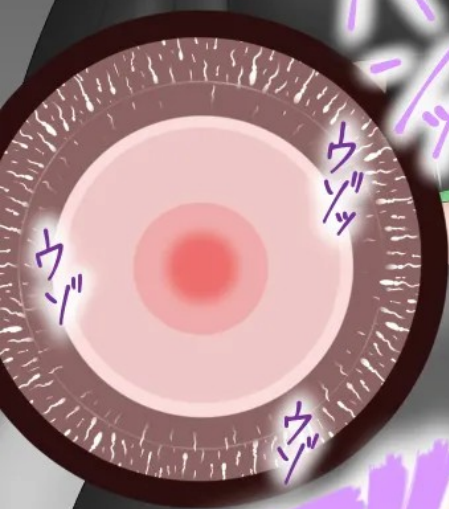
「ーッ、ここで引いたら、私が
負けたみたいじゃないですか!!」



「何の勝ち負けだ…っ、
おい、こっちもいい加減
疲れてるん…だッ
俺の負けでも何でもいから、
この次で、終わりにするぞ…!」

「!? ま…って、いきなり、
そんな、ペース上げた…ら…ッ!」

（ダ…メ、さつきから、イってて、
精子の消化が、集中でき…な…♡）



「ツああああ♥♥♥」

「うっく、うう…ツ」

（あ、ああ…消化…

間に、合わ……ない…

うう、凄…い出て…る♥）

たぶん

ビッ

ツ

ビッ

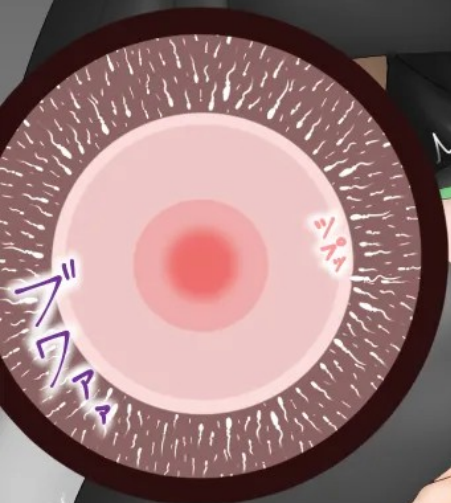
キョ

ゴッ

ビッ

ツ

キョウ



「や…ああ♥ダメえ♥
またツ…イツく…うう♥♥♥」

「おい…そんなに、
絞られると…っぐう!？」

「おツ…おお…♡」

「くっ…も、もう限界だ」

「…？…お、おい、木村…？」

（あああ…受精、しちゃってる♡
でも、今…ならまだ、消化できる…）

「…ふう…ふう、こ、今回は特別に、
引き分けって事にしてあげます…ツ♡」

「…もう何でもいいから、
いい加減、寝かせてくれ…」



数日後…

「…ハロウィンは終わっただろ」

「リベンジ戦です!!
今度こそ私の方が上だという事を
あなたにわからせるんだから…!!」

（最初から全力で搾り取って、速攻で墜とす!
本気を出せば、ただの人間が悪魔の私に勝てる訳…）



数十分後…

「ひゃっ、な…なんで、
こんな…簡単に、イカされて…ッ♥」

「前回散々やったからな…
嫌でもお前の弱い所を覚えたわ
今回はそっちもさっさと
終わらせたい様だし、こっちも
最初から飛ばしてるんだが…っぐ」

「や、ダメっ♥こんな、ずっと、
イってる、状態でえ…射精されたら…♥」



「っ…射精るッ!!」

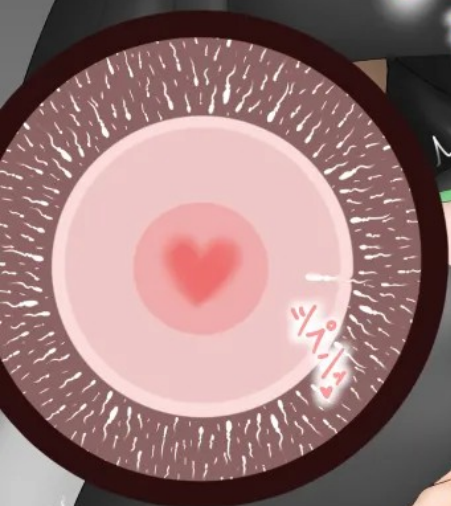
「ッ、あああ、ま、また、
イツ…く、ううううう♡♡♡」

ビュ
ビュ

ビュ

クッ

（ああ…♡ダメなのにい…♡
種付けで、受精…しながら、
イク…ッの、気持ち…良い♡♡♡）



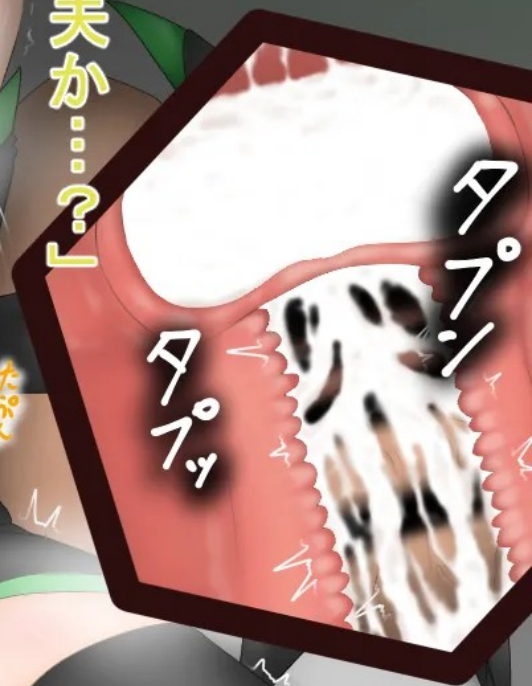
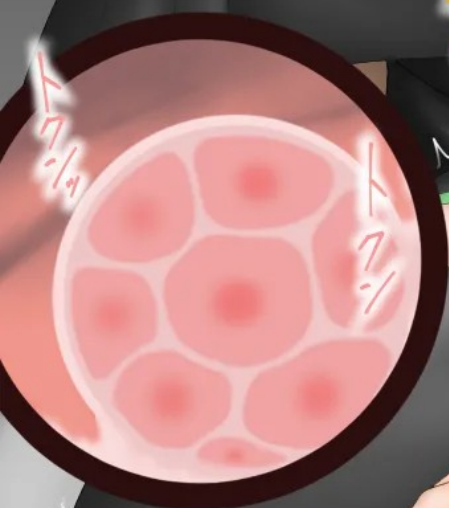
数時間後…

「…しまった、結局流されて
またこんな時間まで…
おい、木村…？お、おい大丈夫か…？」

「お、お…おッ♡♡♡」

「…あー、どうしたものか…はあ…」

受精後の、精気への変換と消化が
間に合わず、木村は無事妊娠した







ニヤッ

だっ

ぱん

ぱん

ぱん

ヌプ













































「…何やってるんだ、お前は」

「何って、ハロウィンだから」

トリックオアトリートしに来たんですよ

…で、返事が無かったのでイタズラしてます♪」

「そりゃ寝てたんだから返事できないわな…」

「ほんととはクレアちゃんに

トリックしたかったけど、

あの子、私を置いて男の子と

デートに行っただですよ！

私を置いて!!男の子と!!デートを!!」

「つまり八つ当たりしに来たのか…」



「まあまあ、こうしてコスプレ美少女と
良い思い出来てるんだから、
そう睨まないでくださいよ」

「自分で言うな…っ…おい、
生でやってるじゃないか
射精る前に早く抜け！」

「大丈夫ですよー安全日
（じゃないけど、精気に変換して
孕む前に消化するから平気）ですし♪」

「そうやって過信するのが…っぐ、
おい、もう射精るからいい加減…」



「…えい♪」
「ぐっ、ーッ」

「…あーあ、避妊がーとか
言っておきながら、こっちが
抜く前にいきなり射精しちゃってーw」
（…抜く素振りかどころか、むしろ
膣内締めて射精を促しといて、こいつ…）



「うわー、何だかんだ言って、
気持ち良さそうな顔で中出し
やりきってるじゃないですかーw」

「……」

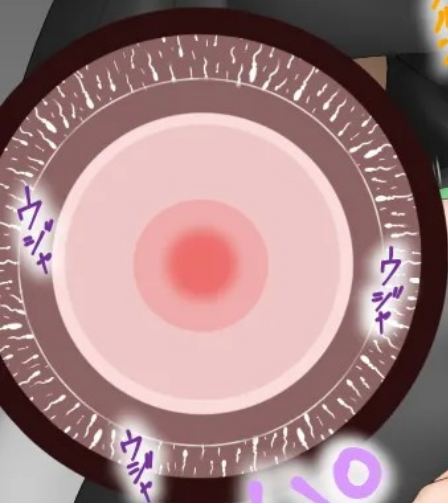
「はいはい、この状況で
睨んでも可愛いだけですよー
さて、まだまだコレも元気そうだし、
このまま最後までトリックしてあげますね♪」



數時間後：

いつになったら

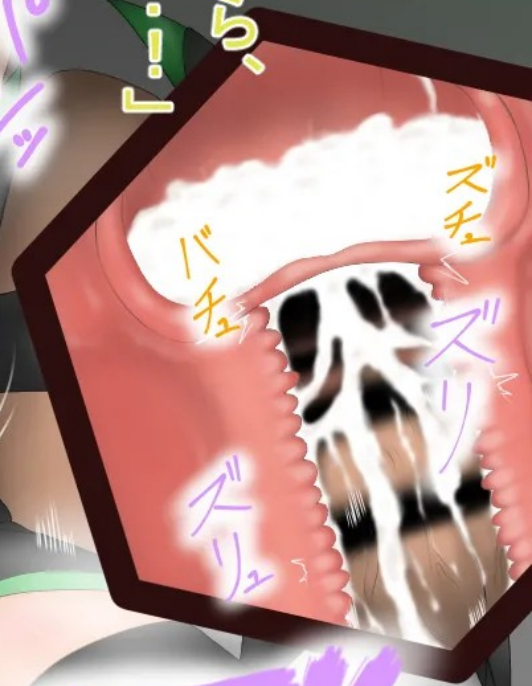
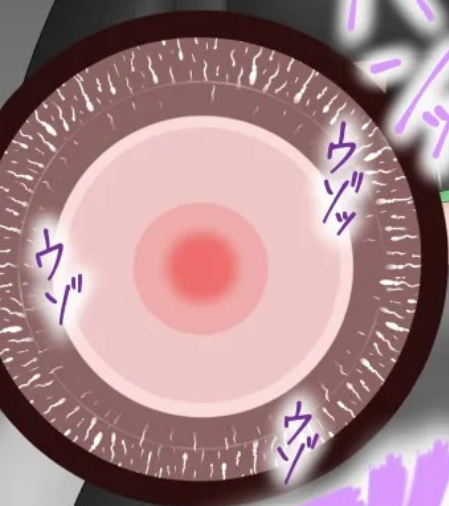
「まだやる…つもり、か…？」



「何の勝ち負けだ…っ、
おい、こっちもいい加減
疲れてるん…だッ
俺の負けでも何でもいいから、
この次で、終わりにするぞ…!!」

「!? ま…って、いきなり、
そんなペース上げた…ら…ッ！」

（ダメ、さっきから、いつてて、
精子の消化が、集中でき……な……♡）



「ツああああ♡♡♡」

「うっく、うう…ッ」

（あ、ああ…消化…

間に、合わ……ない…

うう、凄…い出て…る♡）

たぶん

ビッ

ッ

ビッ

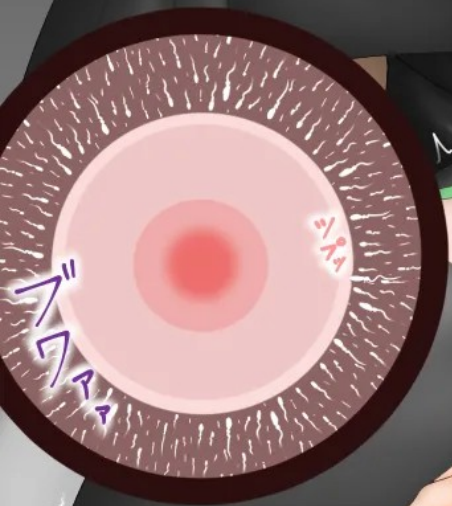
キョ

ゴッ



ビッ

ッ



「や…ああ♡ダメえ♡

またッ…イッく…うう♡♡♡」

「おい…そんなに、
絞られると…っぐう!？」

「おツ…おお…♡」

「くっ…も、もう限界だ」

「…？…お、おい、木村…？」

（あああ…受精、しちゃってる♡
でも、今…ならまだ、消化できる…）

「…ふう…ふう、こ、今回は特別に、
引き分けって事にしてあげます…ツ♡」

「…もう何でもいいから、
いい加減、寝かせてくれ…」



数日後…

「…ハロウィンは終わっただろ」

「リベンジ戦です!!
今度こそ私の方が上だという事を
あなたにわからせるんだから…!!」

（最初から全力で搾り取って、速攻で墜とす!
本気を出せば、ただの人間が悪魔の私に勝てる訳…）

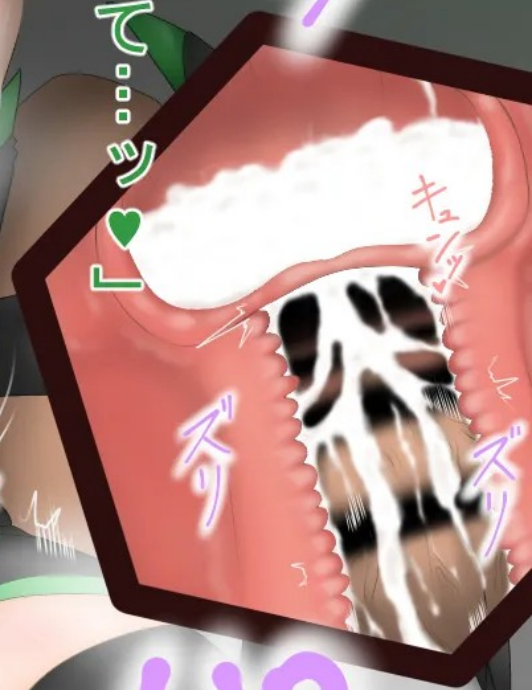
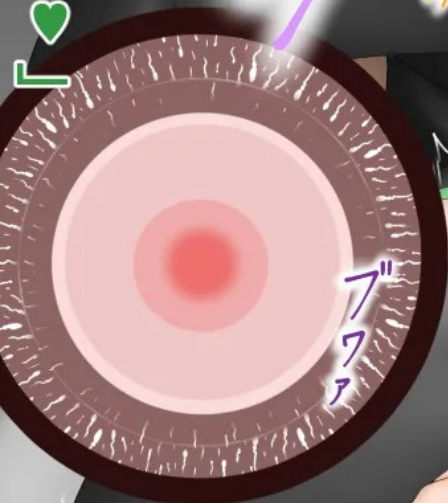


数十分後…

「ひゃっ、な…なんで、
こんな…簡単に、イカされて…ッ♥」

「前回散々やったからな…
嫌でもお前の弱い所を覚えたわ
今回はそっちもさっさと
終わらせたい様だし、こっちも
最初から飛ばしてるんだが…っぐ」

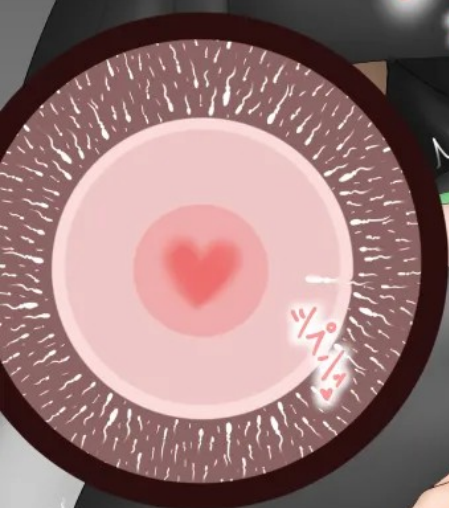
「や、ダメっ♡こんな、ずっと、
イってる、状態でえ…射精されたら…♡」



「っ…射精るッ!!」

「ッ、あああ、ま、また、
イツ…く、ううううう♡♡♡」

（ああ…♡ダメなのにい…♡
種付けで、受精…しながら、
イク…ッの、気持ち…良い♡♡♡）



数時間後…

「…しまった、結局流されて
またこんな時間まで…
おい、木村…？お、おい大丈夫か…？」

「お、お…おッ♡♡♡」

「…あー、どうしたものか…はあ…」

受精後の、精気への変換と消化が
間に合わず、木村は無事妊娠した

